

# NPOゲートシティ多賀城

代表者

脇坂 圭一

所在地

〒985-0873 宮城県多賀城市中央2-25-3市民活動サポートセンター内6

設立年月日

2007年

URL

<http://gatetagajyo.web.fc2.com/>

## 【設立趣旨】

NPOゲートシティ多賀城は、多賀城市の歴史的遺産を継承し、同地域が有する文化財を活用したまちづくりや同市の将来ビジョンづくりの推進、また、それらを通じて住民の歴史的遺産への関心・愛着の醸成を目指す市民団体です。

多賀城は奈良・平安時代に陸奥国府が置かれ、東北地方の政治・軍事の中心でした。しかし、同じ役割を持っていた太宰府と比べてその認知度は低く、また多賀城市内の各特別史跡・重要文化財のネットワークや訪れた人へのホスピタリティの面から、史跡を活かしたまちづくりを行っているとは言い難い状況がありました。更にその周囲はロードサイドショップが押し寄せ、景観の保持も危惧されていました。

また、多賀城市在住者自身が多賀城の歴史そのものへの関心・愛着が希薄なことも懸念されていました。

そのような状況をふまえ、多賀城の歴史的史跡を活かしたまちづくりのビジョンを提示するとともに、実践的な活動を通してまちへの愛着の醸成を目指し、本NPOを設立しました。

## 【沿革】

NPOゲートシティ多賀城にはその前身となる「史跡を活かした街づくりを考える会」があります。「史跡を活かした街づくりを考える会」は2004年(平成16年)の景観法が契機で強まった歴史的遺産の保存・活用に対する意識により、2006年(平成18年)に発足しました。同会はその後「多賀城南門をつくる会」に改名され、当初は多賀城南門の復元を目的としていましたが、「にぎわいの消失」、「没個性化」、「点在する歴史文化遺産への住民の無関心」という問題意識から、南門復元という単体事業だけではなく、多賀城市が誇るべき歴史的遺産を活用した同市のビジョンを描き、それを発信するゲートとしての機能を目指すことへ方針転換しました。その後、多賀城市市民活動団体助成金応募にあたり2007年(平成19年)のNPOゲートシティ多賀城改名へつながりました。

2008年(平成20年)には「多賀城市市民活動サポートセンター」が設立されたことで活動の中心となる場所が確保され、活動や運営が活性化されています。活動初期から様々な活動に取り組んできた結果、行政や市民とも良好な関係を築いており、現在はこれまでの成果を著作物にまとめるなど、今後の事業展開につなげられるよう心がけています。

## 【活動目的】

多賀城市の歴史的遺産を継承し、同地域が有する文化財を活用したまちづくりや同市の将来ビジョンづくりの推進を目指しています。また、それらを通じて住民の歴史的遺産への関心や愛着を醸成することも目的としています。

本NPOは、国・自治体による文化行政の流れを好機として、多賀城市との連携をうまく果たし、良好な官民協働を行っています。現在は、「歴史まちづくり法」による認定を目指して自治体との連携力を活かしつつ、一方で、自律した組織として事業運営およびビジョン提示を継続していくために、精力的に活動を行っています。

## 【活動内容】

### ●歴史の道 詩都景観形成事業

多賀城市から委託を受けて2007年(平成19年)より、「歴史の道 詩都景観形成事業」を行政と協働で実施しています。この事業開催を通じ、探索ルートやマップを作成したり、歴史探索ツアーやワークショップ等の実践的活動を行うことで、市民参画を促したりしています。また、歴史的遺産の課題や魅力を洗い出し、今後のビジョンに関する提言も行っています。

### ●政庁跡南大門大路のコスモスによる植栽表示

2008年(平成20年)には、多賀城の古代の道路を再現するためにコスモスの植栽を実施しました。7月末の苗植には約70人が参加し、多賀城政庁跡に向け南北に走る道路跡の両側にコスモスの苗約1万株などを植えつけました。本植栽は仙台市の造園業者による寄付があり実現しました。史跡を活かす活動として、観光客への有力なPRとなりました。



コスモスの剪定・植栽  
(NPOゲートシティ多賀城HPより <http://gatetagajyo.web.fc2.com/ooji.html>)

### ●「歴史都市・多賀城のまちづくりを考える」シンポジウム

2009年10月に東北歴史博物館10周年記念事業として、本NPOが主催となりシンポジウムを開催しました。「歴史まちづくり法」の発布や、市民協働のもと第五次多賀城市総合計画の策定を受け、特別史跡多賀城市を含めた周辺地域、さらにはまち全体がどうあるべきかを、都市デザインの専門家の意見に加え、行政、産業界、歴史家、そしてNPOがディスカッションをしました。

これらの活動は、会員が自らの特技や関心を活かして計画したものであり、現在成果をまとめた著作物を製作しています。これは、これまでのアイデアの宝庫となることが想定され、更なる事業展開や本NPOの資金的自立につながるものと考えています。

## 【活動上の課題と今後の展望】

最大の課題は、多くのNPOがそうであるように財政的自立です。そのために、会費や行政・企業からの助成金だけではなく、自らの事業による資金確保により、本NPO運営内の資金循環ができるよう尽力したいと考えています。

また、人材確保も課題のひとつであり、特に活動をリードする人材、協調性のある人材の確保を重視して進めていく予定です。